「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0840　◇◆◇　　25/05/14

【 ドル/円、中長期のドル安基調は継続と予想するが・・・ 】

ドル/円相場は 4 月 22 日に 140 円割れ。昨年 9 月以来の安値を記録したものの、その後は逆にドルが堅調裡だ。今月 12 日には 148 円台までの戻りも観測されている。
材料的には、為替に限らず金融市場全般の波乱要因となっていた「トランプ関税」において、最難題と目されていた米中貿易協議が予想以上に順調に進展。双方が「追加関税 115%を引き下げる」と伝えられるなど、過度の緊張が緩和されていることが挙げられよう。そんなドル/円は果たして今後どういった値動きが予想されるのだろうか。以下でレポートしてみたい。

◎ドル短期サイクルでは 4 月安値 139.89 円がサイクルボトムの可能性も!?

4 月 23 日付けの当レターで報じたように、筆者のいまだ大局観は変わっていない。長い目で見た場合の流れは引き続き「ドル安・円高」方向にあると考え、詳細はバックナンバーを参考にされたが、年内のドル下値メドは「130-135 円」もありうると見込んでいる。そうした意味では、まだまだ予断を許さず、この先のドル再下落には十分な注意を払いたい。

しかし、先で取り上げた「トランプ関税」の緩和期待ーーをはじめとする材料面だけでなく、一部のテクニカル指標からもドル安基調からの転換をイメージさせるものがチラホラ観測され始めてきたことが非常に気掛かりだ。
ちなみに、後者であるテクニカル指標のうちひとつを例として取り上げると、過去の当レターで何度も取り上げている「ドルの短期サイクル」になる。

「ドルの短期サイクル」についても、関心のある方は是非バックナンバーを当たっていただきたいが、一言で説明すると「10-15 ヵ月ごとにドルがボトムを付ける」ということがまずある。そして、リード部分で指摘した 4 月 22 日安値の 140 円割れ、具体的には 139.89 円がその「サイクルボトム」となった可能性を否定できないようだ。（右下表参照）

当初筆者は、前回ボトム 2024 年 9 月 16 日の 139.58 円を起点に 10-15 ヵ月後ということで、今年の夏から秋、もう少し正確にいえば 7-11 月に次のボトムをつける公算が大きいと予測していた。実際、4 月 22 日 139.89 円をつけるまでに要した日数は、およそ 7 ヵ月に過ぎず期間は見込みより 3-8 ヵ月も短い。
しかし、2021 年 1 月安値を付けたのち、次の安値までに要した期間も 7 ヵ月であるなど、直近 10 年程度を見ても今回の類例は幾つか観測されている。つまり、ギリギリ許容範囲にあると考えられ、それら事例と同じで今回サイクルが短縮された可能性も捨てきれないところが実に悩ましい。

短期波動(10-15ヵ月)		
160624	98.65	10ヵ月
↓	↓	↓
170908	107.30	15ヵ月
↓	↓	↓
180326	104.57	7ヵ月
↓	↓	↓
190103	104.10	9ヵ月
↓	↓	↓
200309	101.19	14ヵ月
↓	↓	↓
210106	102.60	10ヵ月
↓	↓	↓
210804	108.72	7ヵ月
↓	↓	↓
230116	127.22	17ヵ月
↓	↓	↓
231228	140.26	12ヵ月
↓	↓	↓
240916	139.58	9ヵ月
↓	↓	↓
250422	139.89	7ヵ月

＊注；赤字は暫定値

いずれにしても、4 月の 139.89 円を目先ボトムに、足もとのドル/円相場は 148 円台まで、8 円を超える戻りを達成しており、再びドル戻り高のトレンドにあることは間違いない。上値が重そうで一朝一夕には難しい面もありそうだが、年初来高値 158.88 円を起点にした下げ幅のフィボナッチで考えると半値戻しは 149.40 円レベル。非常にザックリ言えば、150 円程度までの戻りがあっても不思議はなく、ヒョッとするとさらなるドルの戻りもありそうだ。

ただ、問題はその先の考え方。繰り返しになるが、筆者は短期的にはいま一段のドル高進行がありうるものの、そののちドルは再下落に転じ、4 月安値 139.89 円を更新するーーという見方をいまのところ支持している。

翻って材料面から考えて見れば、「今年 7 月」は先週もレポートしたように、トランプ関税における「相互関税の凍結期限（9 日）」。そして、後半には少なくとも「参院選」が確実に実施される見通しだ。また一連の過程のなかで、改めて米国から「日本が円安誘

FX-newsletter

導している」ーーといった発言がでてくる危険性もないではない。
さらに、今回合意した先の米中貿易協議も「90 日」という期限付き。7 月末ごろちょうど期限を迎えるが、そのあいだに根本的な問題解決に果たして至ることが出来るのだろうか、個人的には甚だ疑問に思っている。

ともかく、足もとは明るい展望を抱く向きが少なくないトランプ関税ひとつとっても、それらは先々において不調を呼び失望などに繋がった結果、ドル/円が下値を試すような可能性もあるように思うのだが、さすがにそれはネガティブすぎる見方になるだろうか。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter